

新潟エリアにおける地方創生



東日本旅客鉄道株式会社新潟支社

I. JR東日本について（新潟支社の概要）

■事業概要

2025年3月末時点

社員：約2,400人

線区：12線区（新幹線2線区、在来線10線区）

距離：944.7km（新幹線168km 在来線776.7km）

駅数：195駅

●輸送サービス

のってたのしい列車



越乃Shu*Kura



SLばんえつ物語



海里



上越新幹線・北陸新幹線

とき、たにがわ・はくたか

●生活サービス（グループ事業）

商業施設

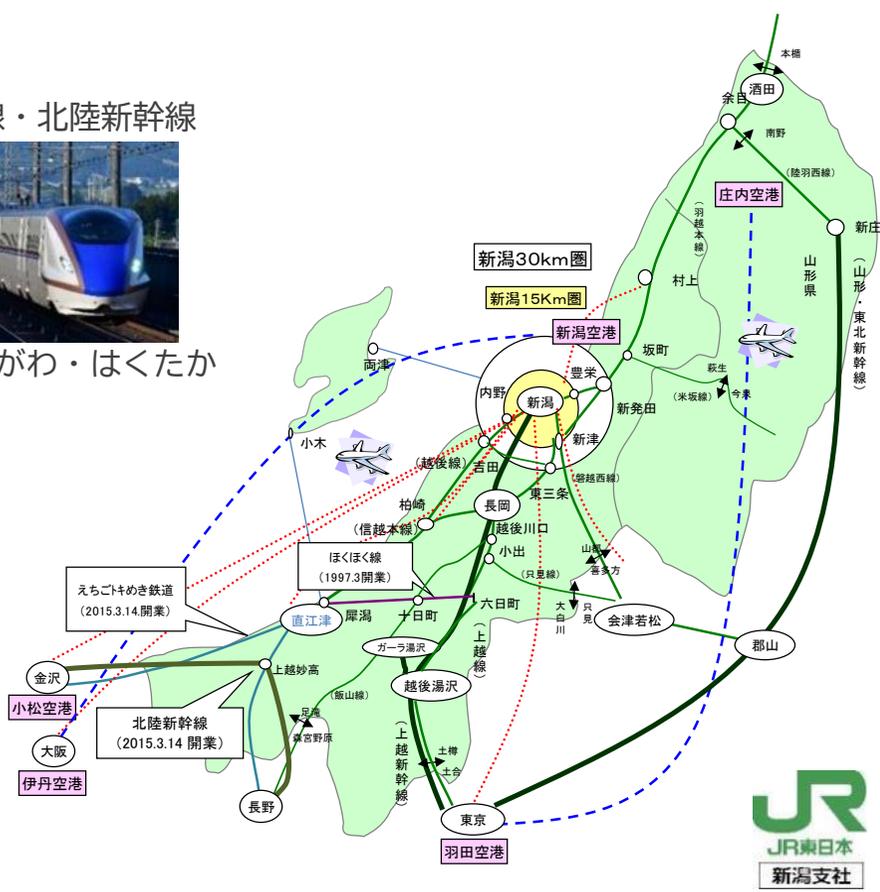
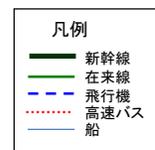


新潟駅ビル「CoCoLo新潟」

ホテル



ファミリーオ佐渡相川



I. JR東日本について（事業領域）

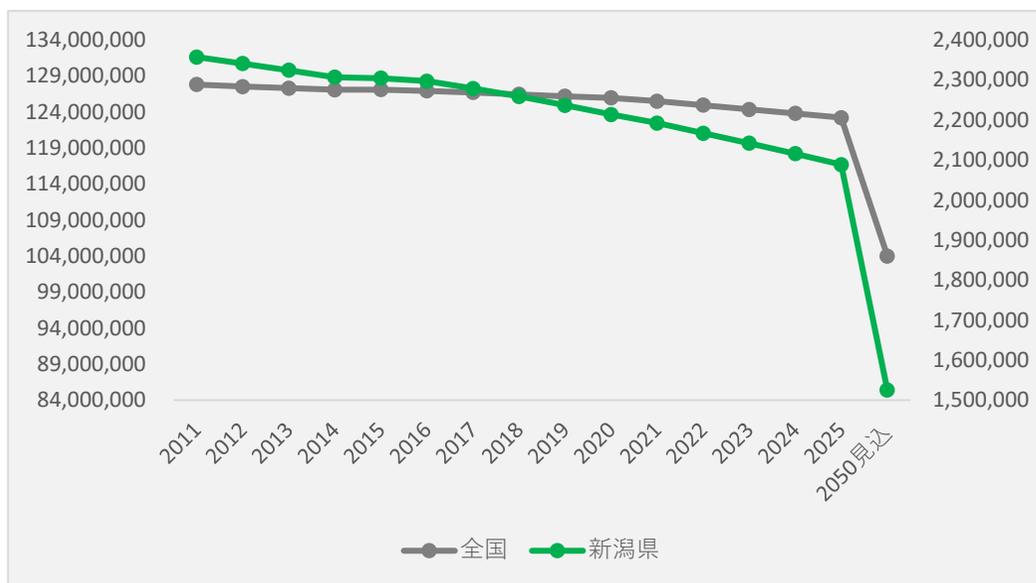


JR東日本グループの強みは「重層的でリアルなネットワーク」

Ⅱ. 鉄道を取り巻く環境（新潟県のトレンド）

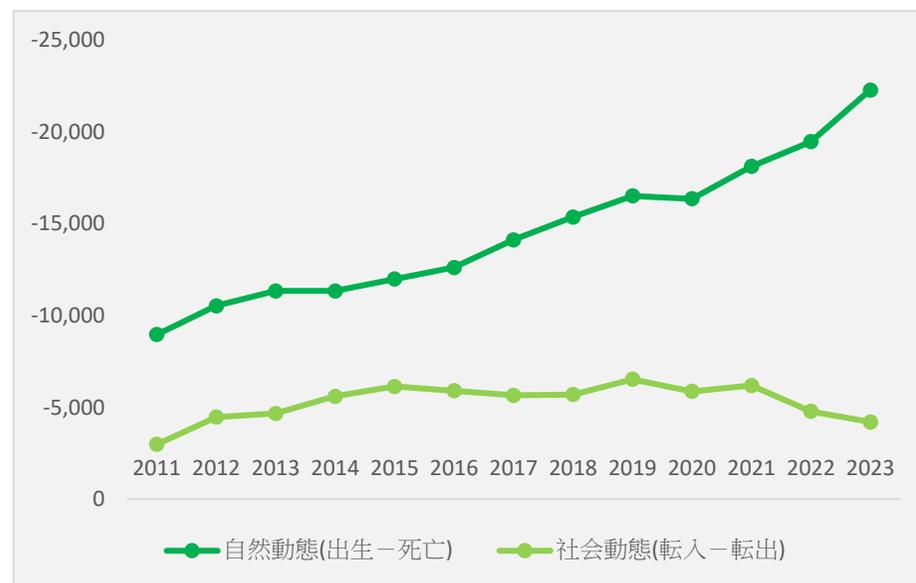
新潟県の人口減少は全国よりも早いペースで進行
少子高齢化により自然減加速、県外への転出超過は全国8～9番目の多さ

人口推移



総務省統計局人口推計・新潟県人口移動調査より

人口動態



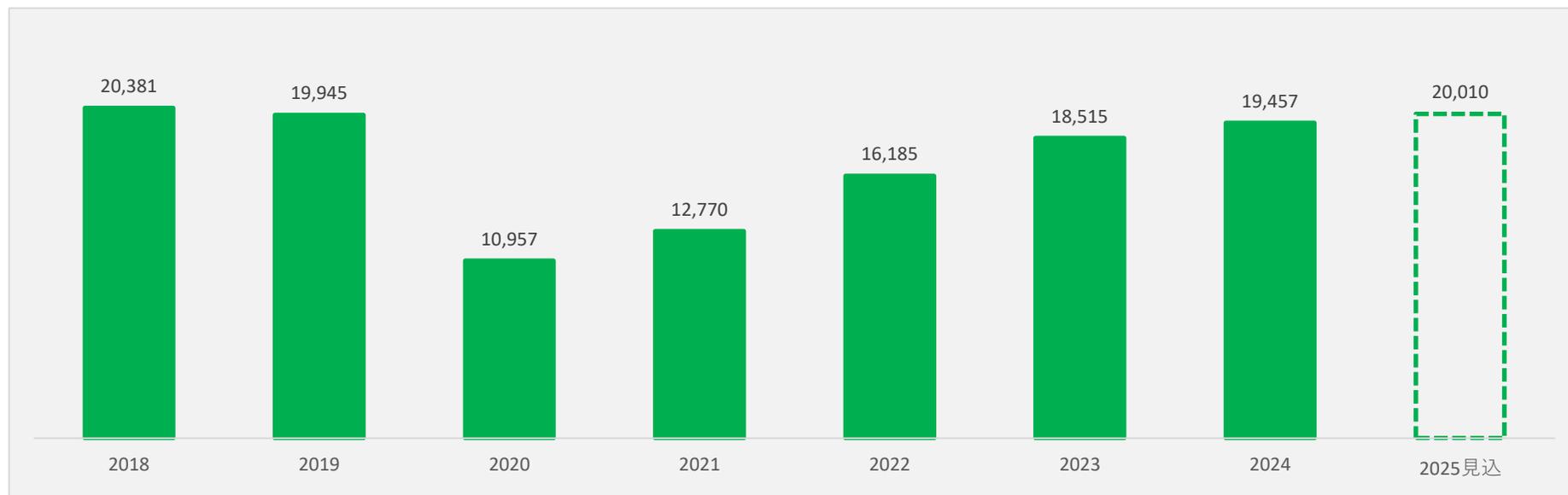
新潟県人口動態の推移より

事業の担い手不足、産業縮小、行政サービス縮小→人口減のスパイラル

Ⅱ. 鉄道を取り巻く環境（鉄道事業のトレンド）

コロナ禍からは回復、インバウンドも好調
だが、人口減少、ライフスタイル・働き方・消費行動の変化等により見通しは厳しい

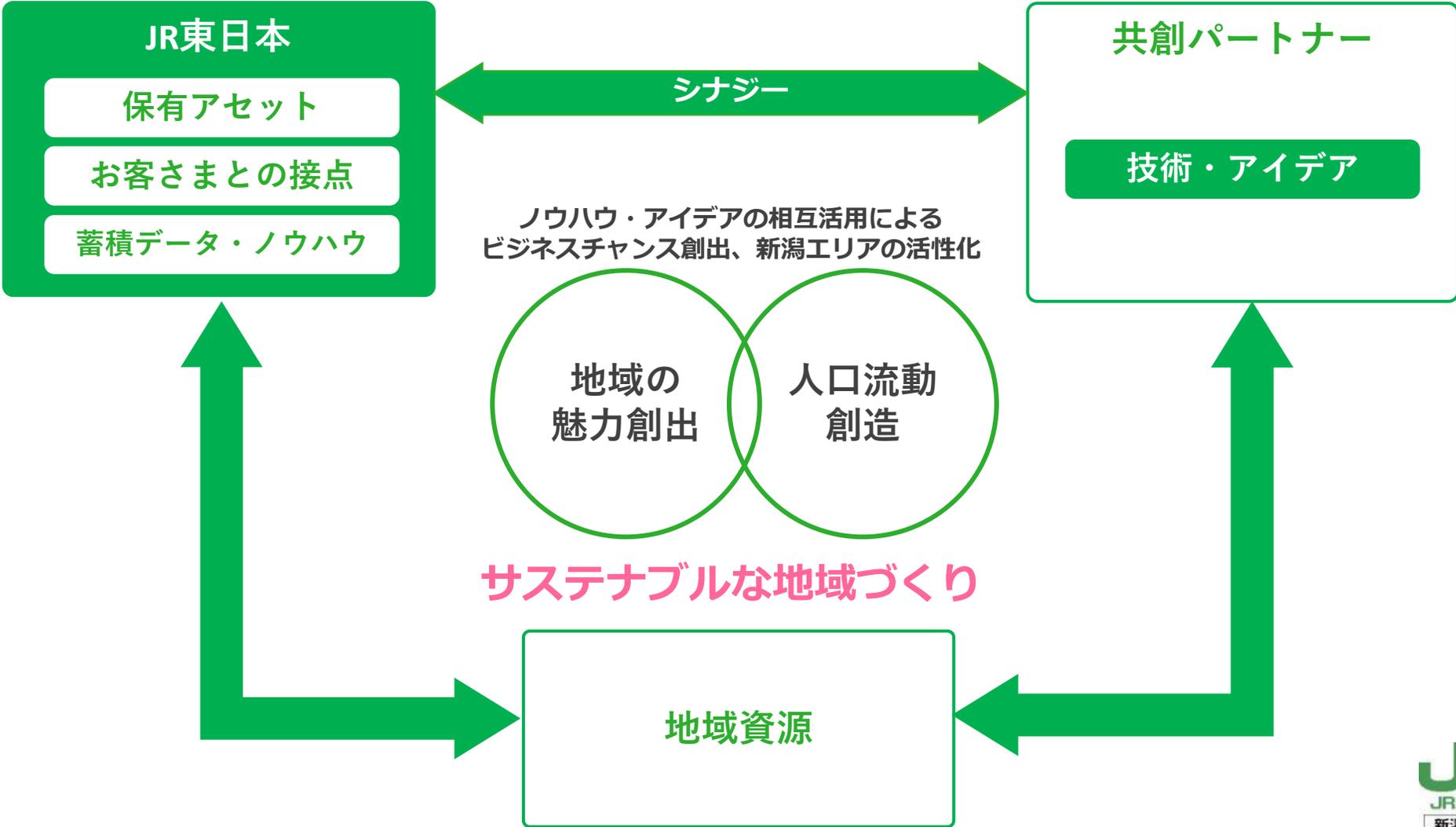
運輸事業収入推移（億円）



地方社会の縮退（高齢化、人口減、産業縮小）は地域交通の衰退に直結

Ⅲ. 新規事業に対する想い

JR東日本にとって活力ある地域社会は事業運営の基盤。地域が元気になるために、持続的に成長していくために、地域課題に対してJR東日本グループのアセットを活用し、新潟エリアにおける経済活性化と、交流・関係・定住人口の拡大に向けて、皆さまとともに新たな価値を創造していきます。



Ⅲ. 新規事業に対する想い

地域に活力をもたらし豊かな日本に

- ローカルスタートアップとの共創により地域課題解決の先進モデルを構築
- 地域と連携しながら新しいビジネスを構築し、地域経済を活性化（はこビュン※等）
- 日本郵政との連携により郵便局・駅の地域拠点化
- 二拠点居住・エキナカ子ども食堂等で地域の拠点づくりを推進

那須塩原エキナカ子ども食堂



内房線安房勝山駅



JRE LOCAL HUB



はこビュン



- モーダルミックスの更なる推進による地域交通のリ・デザイン
- 地域連携による駅周辺の魅力的なまちづくり（コンパクトシティ）
- 新しい駅ビルへのチャレンジなど、JR東日本グループならではの地域活性化と移動の目的（地）づくり
- インバウンド需要を取り込み地方創生を実現
- 新しい観光資源の発掘・復興ツーリズム

インバウンド向けツーリズム



新しい駅ビルへのチャレンジ
（JR 青森駅東口ビル）

ウエルネスホテル「ReLabo」



あおり縄文ステーション（県施設）

青森市民美術展示館（市施設）

IV. 取り組み内容

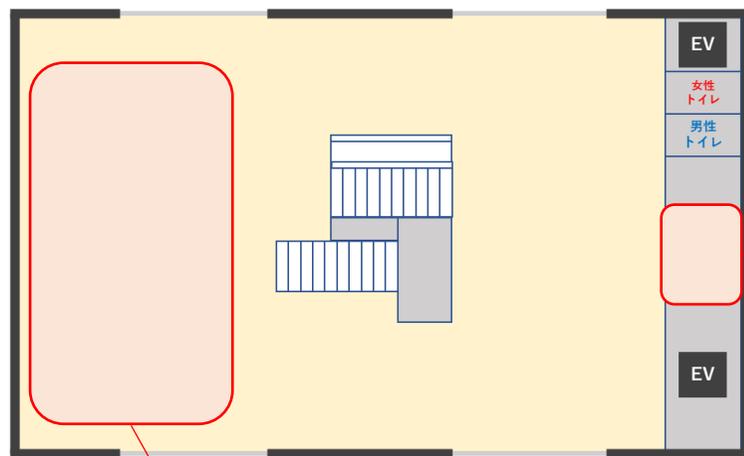
①地域の顔づくり（無人駅や駅スペースの活用を通じた来訪動機の創出）

無人駅や新幹線駅（浦佐・燕三条等）のスペース活用による地域の賑わい創出、地域コミュニティ拠点機能の創出

共創パートナーのイメージ

地域に根付いた活動を行う飲食、製造、流通、サービス事業者

例:燕三条駅1Fスペース



広大な
空きスペース

元飲食店舗



【注意事項】

- ・スペースの貸し出しには賃料・その他経費(敷金・水道光熱費等)が発生。
- ・賃料は駅・面積によって異なるため、個別算出。
- ・内容によっては実施が難しい可能性があるため、申込み後に個別打合せを行う。

IV. 取り組み内容

②人・モノの流動活性化（新潟エリアへの来訪動機創出）

新たな地域コンテンツの開発や既存コンテンツ活用による来訪動機創り
鉄道を活用した移動需要喚起

共創パートナーのイメージ

- ・ 地域資源を活用したまちづくりや観光振興に取り組む事業者
- ・ 体験商品の販路拡大を検討中の事業者
- ・ イベント企画や会場運営事業者（MICE、エンタメ、スポーツ興業他）

沿線資源×鉄道

無人駅をフロント、空き家を客室として沿線全体を宿泊施設化



EC×体験商品

遊びやレジャーの体験チケットを弊社ECサイト『JRE MALL』で販売



イベント×交通インフラ

イベント企画・会場運営事業者と連携した各種イベント誘致



IV. 取り組み内容

③人・モノの流動活性化（列車荷物輸送「はこビュン」の活用）

新幹線の速度・定時性を活かした物流機能を用いた新潟エリアの魅力ある地域産品の流通促進
※新潟⇔東京を基本とし、途中駅積み込み・荷下ろしは応相談

共創パートナーのイメージ

- ・ 生鮮食品や医療関連品等の高速・定時輸送にマッチする商材を扱う事業者
- ・ 物流課題の解決に取り組む事業者（人手不足、配送スピードのアップ、ニーズの多様化etc）

■輸送イメージ

7:00

9:30

10:30

13:00

13:30

14:30

収穫・梱包 持ち込み 新幹線発車

到着・荷下ろし ラストマイル配送 お届け先到着



「地域の顔づくり」の推進、「人・モノの流動活性化」を通じた新潟エリアにおける関係人口の拡大、地域経済の活性化を目指す

地域、パートナー企業、JRが共に発展する
「Win-Win」の関係へ